

タイにおける民主政治の動揺

——NGO はなぜ反民主化運動に加担したのか——

平成 23 年編入
派遣先国：タイ
竹原 かのな

キーワード：タイ，民主化，NGO，クーデタ，タックシン

対象とする問題の概要

タイでは 2006 年から異なる政治思想を持つ勢力同士間における政治闘争が深刻化している。政治混乱の発端は、2005 年から始まったタックシン首相への反対運動であった。この運動は翌年、民主主義のための国民連合(PAD)へと組織され、代議政治を批判し、国王の政治介入を請願した。そして軍事クーデタが発生するとこれを支持した。民政移管後に至っても、再び大衆を動員して首相府や国際空港を占拠し、総選挙で誕生したタックシン派政権を崩壊に導いた。選挙結果を踏みにじられた人々は、反独裁民主戦線(UDD)に結集し、同様に大衆を動員して対抗した。PAD と UDD の政治闘争はその後も激化の一步を辿り、ついに 2010 年には当時の PAD 寄りの政権と UDD による市街戦にまで発展し、タイ現代史上最多の死傷者を出す大惨事へと発展した。現在においても政治混乱は続いている。

研究目的

この政治闘争は PAD と UDD による政治闘争である。双団体が大衆を動員することで、度々大衆が政治の frontline に出てくるようになったことが特徴的であった。この大衆動員の政治に先鞭をつけたのは PAD であった。しかしこの PAD に関する実証研究は僅少である。そこでタイで近年生じている大衆参加型の政治がタイの民主政治に与えた影響を、PAD に着目して明らかにすることを研究目的とする。博士予備論文では、PAD の前身であるソンティ・リムトーンクンによる反タックシンのテレビ放送開始から 2006 年 4 月の総選挙までに生じた大規模な反タックシン運動を扱う。ソンティの発言を演説集から、その後の運動を当時の新聞記事から実証的に検証することで PAD の初期の運動が何だったのかということ明らかにする。

フィールドワークから得られた知見について

今回のフィールドワークは短期間であったために、情報収集が主な目的であった。主に以下の情報収集を行った。

- ① 2005 年から始まるタイ政治混乱に関する先行研究の収集。主に PAD に関する先行研究。
- ② タイ政治研究者へのインタビュー。
- ③ ソンティが経営する Manager 紙の過去の新聞記事を入手しようと試みたが、量が膨大であることと、重要な記事はオンラインで閲覧可能なため、調査対象機関の重要ニュースをまとめて本にしている Muang Thai Raai Sapdaat を全て（合計 6 冊）入手した。また、政治部記者であるタモン氏にインタビュー調査を行った。Manager 社が当時放送していた政治系ニュースである Muang Thai Raai Sapdaat

の2006年から2009年の映像資料をDVDで入手した。

④ PAD集会参加者から、当時会合で配られていたちらし等の配布物を入手。

【ソンティが経営するManager社】



[Manager社入り口]



[Manager社ショップ]

【情報収集を行ったチュラロンコーン大学政治学部とタマサート大学】



[チュラロンコーン大学政治学部図書館]



[タマサート大学タープラチャンキャンパス中央図書館]

【チュラロンコーン大学政治学部教授へのインタビュー】



[チュラロンコーン大学政治学部ウェンラット・ニティボ教授へのインタビュー調査風景]

今後の展開・反省点

今後は、持ち帰った書籍資料，映像資料，インタビュー内容の分析を行う。その後，その内容を博士予備論文として執筆する。

反省点としては，調査が思ったよりも順調に進んだため前半で予定していた資料収集が終了し，後半の日程が余ってしまったことが挙げられる。今回は，新たに政治研究者へのインタビュー調査を増やしたり，デモ参加者への聞き取り調査を行った。今後は日本を出発する前に，より綿密なスケジュールを練ることを意識し，より多くの情報収集に努めたい。